

前田家の幕末と金谷御殿

江戸時代、加賀藩主の前田家は、金沢城（現在の金沢市丸の内ほか）を拠点に政治を行いました。現在の^{おやま}尾山神社が建つ敷地は、かつて「^{かなやでまる}金谷出丸」という金沢城の一部でした。六代藩主^{よしのり}吉徳の時代以降は、「^{かなやごてん}金谷御殿」と呼ばれる^{いんきよ}隠居した藩主などの居住地となりました。

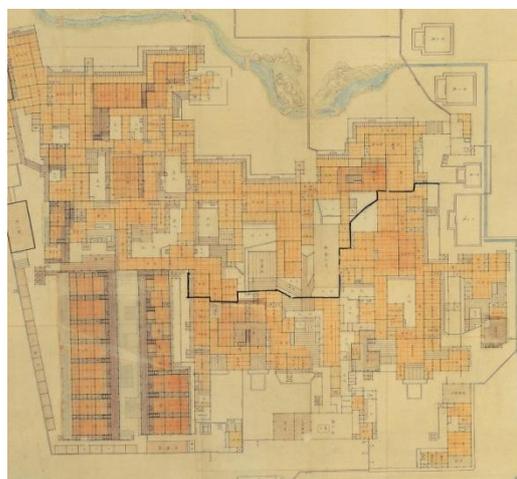
明治四年（1871）の七月、明治新政府はこれまでの藩ごとによる政治を廃止する^{はいはんちけん}廃藩置県を行いました。このとき、藩知事として藩を治めていた元藩主一族は、その役目を解かれる代わりに^{かぞく}華族の身分を保証され、東京に移住することになりました。

金谷御殿の最後の住人となったのは、十三代藩主前田^{なりやす}斉泰（1811-1884年）で、廃藩置県の通達が出されてから二カ月後の九月に東京に移住しました。

さて、斉泰が金沢を離れる直前の八月、金谷御殿に徳用村からの一通の^{たんがんしょ}嘆願書がもたらされました。



尾山神社（金沢市尾山町 写真提供：金沢市）



金谷御殿図（金沢市立玉川図書館蔵）